イベントレポート 『SWIFT meeting in TUBU 2009』

2009年11月8日(日)愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにおいて、『SWIFT meeting in TUBU 2009』が行われた。
昨年に引き続き第2回目となった今年のイベント、本年も関東や関西、遠方では広島からのエントリーもあり、多数のスイフトユーザーが走り、出展ブース、交流などを楽しんだ。

■参加型イベント

走行イベントとしては、スイフトだけの走行会「スイフトONLY走行会(20分×3本)」ならびに、スイフト日本最速決定戦「King of SWIFT」が開催され、エントラントはスイフトだらけの走行を楽しんだ。
(King of SWIFTの詳細レポートは文末にあります)

また教室では田中実プロによるドラスクが開催され、受講者はスイフトでスパ西浦モーターパークを速く走るポイントに耳を傾けた。
図解も交えてのわかり易い解説や、お笑いタレント並みの楽しいトークで、受講者はたいへん満足した様子だった。

ドレスアップコンテストは「ドレスアップ部門」と「痛車部門」の2部門で投票が行われた。
約200票の投票の中から選ばれた各部門の優勝者には、優勝盾が送られた。

パレードランは全競技系イベントが終了した後の15:45より行われ、約30台のマシンがセーフティーカーに先導されて2周の走行を行った。
その後メインストレートに全車停車して、記念撮影を楽しんだ。

■ギャラリーイベント

エントラントおよびギャラリーの希望者の中から抽選で、デモカーの助手席への同乗走行が行われた。
幸運な当選者はあこがれのデモカーの助手席に乗り、2周の全開走行を堪能した。

また、デモカーによるタイムアタックも行われ、毎周更新されるベストタイムに観衆が釘付けとなった。
この日のベストタイムは 1'02.160 をマークした「TM-SQUARE（Dr 田中実）」で、「ﾄﾗｲﾌｫｰｽｶﾝﾊﾟﾆｰ（Dr木下みつひろ）」の 1'02.293 を僅差でかわした。

パドックでは田中実プロ、木下みつひろプロ、REV SPEED編集部前田氏による、スイフトトークショーが開催された。
普段は雑誌に出てこないようなウラ話に加え、3人の漫才のようなテンポでの楽しい話しに、観衆は大盛り上がりであった。

大抽選会では、各出展社からの協賛品をクジ引きで当選者を選定。
約50品の豪華賞品が、エントラントのほかギャラリーにも当り、当選した参加者たちは大喜びであった。

■ブース出展、デモカー展示

全12社のスイフトスペシャリティーショップ＆パーツメーカーが、デモカーやパーツの展示販売を行った。
最新のチューニングマシンやパーツが身近に見られるとあり、エントラントやギャラリーは真剣に見入っていた。

出展ブースをMCが回るショップインタビューでは、各出展社の最新のパーツ情報やおすすめパーツのトークが繰り広げられた。
三栄書房の取材で来場していたモータージャーナリストのフジトモこと藤島知子氏も参加し、インタビューに華を添えた。

【King of SWIFT レースレポート】
今年は16台のエントリーとなったKing of SWIFT。前評判では昨年よりもチューニングのレベルが上がり、昨年以上の高レベルな戦いが予想された。
予選では、その前評判通りのハイレベルな激しい争いが繰り広げられ、上位4台が3秒台を出す結果となった。

■予選
予選1番時計を叩き出したのは、大阪からエントリーのNo.133 山本裕輔選手。Sタイヤ装着（NA－S）クラスながらNAのマシンで 1'03.188 をマーク。
2 番手は過給機付き（TSC）クラスの No.145 山崎貴志選手でタイムは 1'03.464 を記録。山崎選手は昨年Sタイヤを装着して 1'02.995 の驚異的なタイムを残したが、今年はラジアルタイヤのためか昨年のタイムには届かず、2 年連続のポールは逃してしまう。
3 番手に入ったのは No.110 緒方成男選手で、NAマシンのラジアルタイヤ（NA－R）クラスのトップとなる 1'03.662 を記録。緒方選手は同日に開催された耐久レースとのダブルエントリーのハードスケジュール。
4 番手は No.135 宮坂真也選手でタイムは 1'03.876。宮脇選手はNA－RクラスのZC31勢の中ではトップとなるポジション。
ここまでが 3 秒台をマークしたが、昨年の優勝者大矢選手の予選タイムが 1'04.530 であったことを考えると、驚異的な伸びであると言えよう。
以下 5 番手にNA－RクラスのNo.134 五島大介選手、6 番手 No.146 加門弘勝選手と続いた。

No.133 山本選手

No.146 加門選手

■決勝
15 時 25 分。やや傾きかけた日差しを前方から受けながら、決勝グリッドには 14 台のマシンが並ぶ。
スタートはフォーメーションラップ無しの、シグナルスタートだ。10 秒前ボードがメインポストに提示され、5 秒前より赤シグナルが 1 つずつ点灯。5 つの赤信号が一斉に消灯して 10 周にわたる決勝の火蓋が切って落とされた。
見事なスタートを決めたのが、予選 6 位の No.146 加門弘勝選手、7 位の No.140 桜井仁選手、8 位の No.136 矢部達夫選手の 3 台。
スタートで一気に前に出て、それぞれ 1Lap 経過時点では、2 位、4 位、5 位にポジションアップ。
一方スタートで失敗し、1 コーナーでもコースオフした予選 2 位スタートの No.145 山崎貴志選手は、1 周を終えた時点で 10 番手以下まで順位を下げてしまう。
そんな後続の混乱をよそにポールスタートの No.133 山本裕輔選手は 1 番手をキープし、その後の周回でもじわじわと後続を引き離して行く。
序盤 2 位争いを No.146 加門弘勝選手と、No.110 緒方

No.135 宮坂選手

No.134 五島選手

成男選手の 2 台の HT81 が繰り広げるが、4 周目の S 字を過ぎたところで No.110 緒方成男選手が突然のスローダウン。シフト系のトラブルでリタイヤとなってしまう。
その後ろでは、No.140 桜井仁選手、No.136 矢部達夫選手、No.134 五島大介選手、No.135 宮坂真也選手が僅差のバトルを展開し、観客の視線を集める。
中盤から終盤にかけてじわりと順位が代わり、9 周目インの際の順位は 3 位 No.140 桜井仁選手、4 位 No.134 五島大介選手、5 位 No.135 宮坂真也選手、6 位 No.136 矢部達夫選手の順。
そんな後方のバトルをよそに、1 位 No.133 山本裕輔選手と 2 位 No.146 加門弘勝選手は後続を引き離し、その順位を磐石なものにしていく。
最終の 10Lap 目に突入した 1 コーナーで一気にレースが動く。4 番手の No.135 宮坂真也選手が 3 番手の No.140 桜井仁選手のインを差しポジションアップに成功。またこれに乗じて、No.134 五島大介選手も一気に No.140 桜井仁選手をパスする。
その後方では、スタート直後に 10 位以下にまで順位を落としながら驚異的な追い上げをしてきた No.145 山崎貴志選手が、最終ラップで 6 位の No.136 矢部達夫選手をパスし、ＴＳＣクラス同士の戦いを制する形となった。

■最終結果
予選から一度もトップの座を譲ることの無かった No.133 山本裕輔選手が 1 位でチェッカー。ＮＡ－Ｓクラス 1 位と同時に総合 1 位も獲得し、「King of SWIFT」盾を手中にした。
2 位には予選 6 位ながら見事なスタートを決めた No.146 加門弘勝選手が入り、ＮＡ－Ｒクラスの優勝を決めた。
熾烈な総合 3 位争いを制したのは No.135 宮坂真也選手。スタートで出遅れて一時は 7 位にまで順位を落としたが、見事な追い上げでＮＡ－Ｒクラス 2 位をＧＥＴした。
また宮坂選手と共に熱いバトルで観客を沸かせてくれた No.134 五島大介選手と、No.140 桜井仁選手が、それぞれ総合 4 位、5 位となった。
総合 6 位と 7 位はＴＳＣクラスの 2 台が入り、最終ラップでポジションアップした No.145 山崎貴志選手が No.136 矢部達夫選手を抑えてクラス優勝を飾った。
以下総合 7 位 No.137 粟津原光選手、8 位 No.141 石塚剛選手と続いた。
昨年は赤旗でわずか 5Lap の決勝となったが、今年は 10 周を走りきり、随所で高レベルな争いを見ることが出来た。上位争いに絡めなかった選手もそれぞれの戦いを満喫し、今年のKing of SWIFTは幕を閉じた。

No.140 桜井選手

No.145 山崎選手

ＮＡ－Ｓクラス

ＮＡ－Ｒクラス

TSC クラス